

3 . その他の眺望景観保全地域の景観シミュレーション

3 - 1 景観シミュレーションの目的

(1) 景観の種類

影響調査を必要とする景観は、視点場からの距離により、次の3種類に分類されます。
は、この3種類の景観に対して作成します。

近景	視点場からの距離が概ね0.1km ~ 0.5km
中景	視点場からの距離が概ね0.5km ~ 2.0km
遠景	視点場からの距離が概ね2.0km ~ 5.0km

重要眺望点に関する景観シミュレーションは、このうちの中景と、重要眺望点からの景観に対して行います。

(2) 景観シミュレーションの目的

中景の視点場からの景観シミュレーションの目的は次のとおりです。

中景の視点場からのシミュレーション

主に建築物等の規模（高さ）が景観に与える影響を検証するために行います。

主として、計画建築物等の形態、基調色、及び規模についてチェックします。

計画建築物等と、その前景及び背景となる「主要な眺望景観を構成する景観資源」との関係に配慮します。

重要眺望点からの景観シミュレーションは、近景、中景、遠景など、景観の種類を問わず行います。

近景、遠景の視点場からの景観シミュレーションの目的は次のとおりです。

近景の視点場からのシミュレーション

主に建築物等の意匠・形態や色彩を把握するために行います。

計画建築物等の意匠、素材、アクセントカラー、敷地内の緑化など、計画建築物等の主要な構造やディテールと周辺地域との関係をチェックします。

遠景の視点場からのシミュレーション

主に建築物等の規模（高さ）が景観に与える影響を検証するために行います。

主として、計画建築物等の位置と規模についてチェックします。

計画建築物等と、その背景となる「主要な眺望景観を構成する景観資源」との関係に配慮します。